

○庄原市比和町は集落法人の設立事例がなく、福田・元常地区では高齢化により地域農業の継続が懸念され、**新たな営農のしくみづくりが必要**となった。

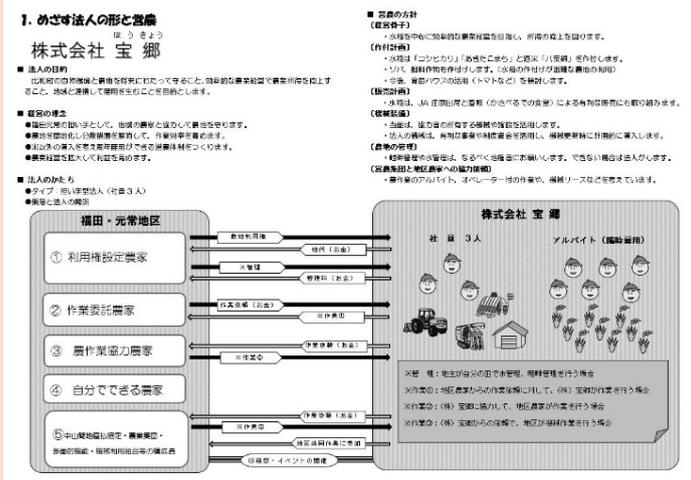
○平成30年から**地区内の若者が新たな担い手**となる法人の設立と経営計画の策定、地区農家との作業連携のしくみづくりに関する合意形成を支援した。

○令和元年に**町内初で地区の担い手となる集落法人が設立**し、人・農地プランの策定や農地中間管理事業を活用して、水稻60haの経営を目指した営農を展開している。

具体的な成果

1 集落法人が設立

- 令和元年に地区の若者が代表取締役で**(株)宝郷**を設立。
- 法人と地区農家が作業を補完する地域営農を実践(農作業の連携体制)。



普及指導員の活動

- 平成30年
- 関係機関による**支援体制と検討手順を提案**し、法人設立検討会で話し合い開始。
 - 地区リーダー、若者と地域農業の課題を整理、めざす営農の形を「**集落法人Q&A**」でとりまとめ。

- 令和元年
- 営農のしくみパンフレット**作成や地区説明会で地区内における合意形成を支援。
 - 経営計画(10ヵ年)策定の支援。
 - 農業経営者サポート事業(県)を活用**して、専門家派遣による経営計画の妥当性と法人設立手続きの確認。

- 令和2～4年(継続中)
- 関係機関と連携し、**担い手確保・経営強化支援事業(国)等**を活用した機械と施設整備を支援。
 - 水稻の目標収量を確保**するため、課題と改善項目を整理し収量向上実証ほを設置。

普及指導員だからできたこと

- ・**これまで各地で集落法人の育成に関わってきたノウハウとコーディネート力**を活かし、地域の実態とニーズに合った営農方式の提案や合意形成をサポートすることができた。
- ・**作物の専門知識や観察、診断等技術力**を活かし、水稻の目標収量確保に向けた問題提起と改善策の提案、実証までの動きをつくることができた。

2 水田農業を核とした集落法人の育成

- 農地中間管理事業による農地集積 **0ha(R元) → 25ha(R4)**
- 地区は人・農地プランを策定(R元)
- 経営計画に沿った設備投資を実施(R3)

[乾燥調製施設]



- 水稻収量向上に向けた改善5項目(施肥等)を整理(R3)。

広島県

庄原市比和町内初の新たな担い手集落法人の設立と育成

活動期間：平成30年度～（継続中）

1. 取組の背景

庄原市比和町は、明治時代から酒米栽培に取り組むなど稲作を中心とする中山間の水田地帯で、これまでは個別経営と営農組合（機械共同利用等）で地域農業を維持し、平成30年までに集落営農の法人化（以下「集落法人」という）は無かった。福田・元常地区（農地107ha、農家63戸）も同様に、営農組合が機械作業を受託して担い手の役割を果たしてきた。しかし、近年は農家の高齢化や後継者不足が深刻化し、地区リーダーには農地を預けたい声が届くようになった。このため、平成30年に地区自治会の提案で全戸参加の「福田・元常地域農業を考える会」を発足し、将来の地域農業のあり方について検討を始めた。

この検討の中で、地区内の若者（30代、水稻3.7ha経営）が自ら担い手となり農業経営を拡大する意志を固め、関係機関にビジョンを具体化する支援が求められた。そこで、関係機関で構成する戦略組織「担い手支援検討班」は、担い手と地域がつくる新たな営農のしくみづくりを目指し、平成31年度から普及指導計画で集落法人の設立と育成に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

（1）平成30年度

地区リーダーからの支援依頼を受け、担い手育成支援を担う戦略組織「担い手支援検討班（県、市、JA）」は、班員が役割分担して一体的に支援することを確認して活動を始めた。また、今後の検討手順を提案して、話し合いが円滑に進むよう働きかけた。

検討は、「福田・元常地域農業を考える会」を代表する地区リーダーと担い手候補の若者に対し、地区農業の問題抽出と課題整理から始め、新たな営農のしくみは「集落法人Q&A」様式を提示し、合計32問の答えを見出せるよう話し合いを進行して、方向性を取りまとめた。

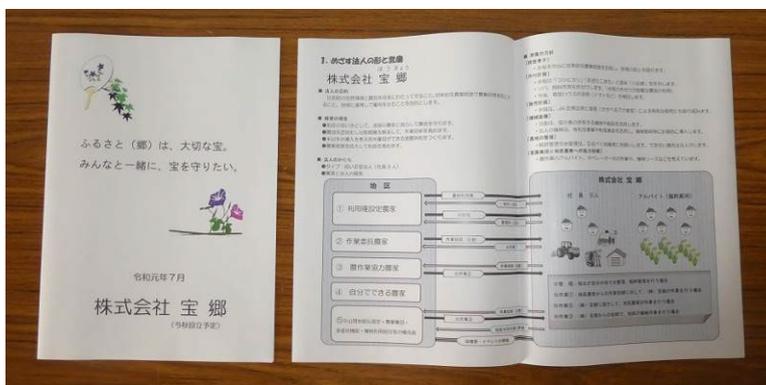
〔集落法人Q&A〕様式 問一覧

1	法人を設立する目的は何ですか？	11	地代はいくらか？条件で差はあるか？
2	法人の形態は何ですか？	12	出資金はいくらか？
3	法人タイプは全戸参加か担い手か？	13	設立後に数年経過して加入できるか？
4	引受ける水田区域はどこですか？	14	畦畔の草刈りはどうなるか？
5	地区内外の大型農家との関係は？	15	水管理はどうなるか？
6	法人はいつ設立するか？	16	ため池や水路の維持管理はどうなるか？
7	法人の営農はいつ開始するか？	17	水利組合負担金等は誰が負担するのか？
8	誰でも法人に加入できるか？	18	ほ場整備の償還金は、どうなるのか？
9	利用権設定する期間は何年か？	19	野菜を作っている田も法人に預けるか？
10	引受ける水田の条件はあるか？	20	中山間直払交付金はどうなるか？

21	法人が赤字になったらどうするか？	27	オペレーターは確保できるのか？
22	構成員の飯米はどうなりますか？	28	軽作業など何か手伝う仕事はあるか？
23	個人所有の機械はどうするのか？	29	オペレーターや一般作業の賃金は？
24	営農組合の機械はどうするのか？	30	水稻以外の作物に取り組むか？
25	法人の機械・施設はどうするのか？	31	水稻はこだわった作り方をするのか？
26	機械導入は補助事業を活用するか？	32	米はどこに販売するのか？

(2) 平成 31 年度（令和元年度）

「集落法人 Q & A」の取りまとめを基に、地区の若者が設立する法人の経営概要と、地区農家との作業の連携体制を表したパンフレットの作成を支援した。地区全体説明会では、地区リーダーと担い手候補の若者がパンフレットを活用して地区農家にビジョンを説明し、関係機関と課題の整理をしながら合意形成を進めた。



(写真)
パンフレット
「めざす営農の形」

担い手候補の若者に対しては、法人の経営計画（10 ヶ年）の策定を支援した。経営規模に適応した水稻の品種構成や育苗方法、使用資材、人件費、設備投資等の前提条件を積み上げ、実行性のある計画になるよう指導した。

また経営者として、①経営計画の妥当性、②法人設立の手続き、③大規模稲作経営の実態を知る必要があるため、県事業「農業経営者サポート事業」を活用し、専門家3名の派遣指導を受け、経営開始の準備を進めた。

(3) 令和 2～4 年度（継続中）

法人設立後のフォローアップとして、規模拡大と並行して水稻の収量を安定して確保できるように、年間作業計画の作成や地区農家との作業の連携体制の実施を支援した。令和3年度からは、水稻の栽培改善項目（施肥、水管理、病害、雑草、獣害）の整理と改善実証ほ設置に取り組んでいる。

また、令和3年度にコンバインと乾燥調製施設を装備するため、担い手確保・経営強化支援事業（国）等の活用を関係機関と連携して支援した。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 町内初の集落法人が設立

令和1年11月に地区の若者が代表取締役となり（株）宝郷を設立した。地区農業の新たな担い手として、令和2年度から農業経営を開始した。

担い手と地域がつくる新たな営農のしくみでは、法人と地区農家や営農組合による農作業の協力体制が出来た。法人は、農地の受け皿となって農地集積を進め、一方で畦畔管理や水管理、機械作業は、協力可能な地区農家に作業委託して、効率的に農作業を進めている。

(2) 水田農業を核とした集落法人の育成

法人設立と同時に、地区は人・農地プランを策定し、法人を中心経営体に位置づけた。法人の農地集積は農地中間管理事業を活用し、経営1年目は13haでスタートした。経営3年目となる令和4年度は25haに拡大した。

令和3年度は、担い手確保・経営強化支援事業（国）と市補助事業を活用してコンバインと乾燥調製施設を装備した。

(写真) 乾燥調製施設



4. 農家等からの評価・コメント（比和町（株）宝郷 香川通昭氏）

集落営農や法人化の話合いは、農家だけでは時間もかかり進みにくく、指導所をはじめ関係機関と一緒に検討を進めたからこそ、現在の姿を実現することができた。町内初の集落法人ということもあり、町内の農家から問合せや関心、担い手としての期待も寄せられている。今後も経営拡大を進めていくので、引き続き課題解決の支援をいただきたい。

5. 普及指導員のコメント（北部農業技術指導所・主査・遠藤健志）

地元関係機関と地区リーダー、担い手が地区に一番合う営農の姿を見つめようと、それぞれの立場から課題を提起し、根気強く議論を重ねたことが成果につながったと考える。当地区が先進事例となり、他地区でも地域農業の方向性を議論する動きに波及することを期待したい。

6. 現状・今後の展開等

法人は、経営計画に沿って農地集積や設備投資を進めており、将来は水稻60ha経営を目標にしている。一方で、急激な経営規模の拡大による新たな課題は、①水稻収量の安定化、②省力・低コスト化、③労務確保（地域協力体制の強化等）が考えられ、法人に対し事前の課題認識を図っている。

令和3年度から水稻収量の安定化を課題とし、低収要因の整理と改善実証への設置により、目標収量の確保を支援している。また、資材や燃料の高騰への対処、将来の経営発展に向けた人材育成や社内体制の確立にも着手していく必要があり、課題の優先度や細分化を考えながら支援活動に取り組む。